

「港湾空港技術特別講演会 in 札幌 2013」の開催について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

平成 25 年 11 月 11 日、北海道開発局(以下、開発局)、国土技術政策総合研究所(以下、国総研)、(独)港湾空港技術研究所(以下、港空研)および(独)寒地土木研究所(以下、寒地土研)の共催による「港湾空港技術特別講演会 in 札幌 2013」を札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂にて開催しました。

本講演会は、港湾・沿岸環境並びに空港分野に関する最先端の研究、技術開発成果を情報提供することを目的に毎年開催しております。

冒頭、開催にあたり、開発局の川合港湾空港部長から「若手技術者が減少し、技術の伝承が課題となっている中で、港湾空港の技術力の向上を目指している本講演会は重要な役割を果たしている。参加している開発局職員、港湾管理者、民間企業の皆さん、オール北海道で港湾空港技術の伝承に取り組んでいただきたい。」と挨拶がありました。

はじめに、港空研の高橋理事長、国総研の吉田管理調整部長から両研究所の概要、研究活動などについて紹介があり、続いて、港空研の栗山特別研究官から「漂砂対策に関する最近の動き」と題して、海岸浸食・港内埋没のメカニズムと漂砂対策の説明、国内外のサンドバイパスの実施事例の紹介がありました。

港空研基礎工研究チームの水谷リーダーからは、船舶の大型化に伴う既設岸壁の増深需要が高まる中、重力式岸壁について、捨石マウンドの一部を改良・固化することにより法線位置を変更せずに岸壁を増深する工法について説明がありました。また、港空研の吉江新技術研究開発領域長からは、航路部の津波対策として開発が進められている浮上式防波堤について、高精度施工のための下部工真円度計測装置など、新技術についての紹介がありました。

次に、国総研の小泉港湾研究部長から港湾施設の老朽化対策の推進、地震津波対策の推進、港湾の技術基準類の国際化・国際展開の推進について説明をいただきました。

国総研空港研究部の坪川主任研究官からは、経験的に設計されていた空港舗装について、理論的設計法の導入経緯と問題点についての説明があり、理論的設計法の有効性について紹介されました。

特別講演では、北海道大学大学院の横田教授から「港湾構造物の維持管理の動向と戦略」と題する講演があ



講演会の様子

りました。港湾施設の維持管理に関する最近の動向、維持管理における点検調査の重要性、調査法の選定、構造性能の目視点検による推定・予測について説明があり、良好な維持管理の実践には、特に目視点検の確実な実施(選択と集中)が重要であると述べられました。

最後に、寒地土研寒冷沿岸域チームの山本上席研究員から流水に関する研究例、海水による鋼構造物の損耗・劣化対策に関する研究報告があり、設計において流水の影響を加味する必要性について説明がありました。

当日は、建設会社、コンサルタント会社、港湾管理者、開発局職員など約 140 名の参加をいただきました。

会場では、熱心に聞き入る姿や、最新の情報に対して活発な質疑がなされるなど、参加者の関心の高さが窺えました。

最後に、講演をいただいた研究者の方々、ご多忙の中、講演会に参加をいただきました皆様へのお礼に代え、報告とさせていただきます。

